

根来山げんきの森倶楽部

令和3年11月作業日誌



あっという間に今年も年末を迎えようとしています。11月の活動日は紅葉深まる森で、各チームが精力的に活動しました。今回はテレビ和歌山さんが取材に来てくださり、通信のお知らせ通り放送される予定です。

活動日：令和3年11月21日 9:30～15:30 天気：晴れ 倶楽部員：39名



生き物集まる素敵な森を

鳥の巣箱設置・・・色づき始めた秋の森で鳥の巣箱掛けの作業を行いました。先月取り外して掃除した巣箱20個を歩道沿いの木に順番に取り付けていきます。たくさんの巣箱を通した竹竿の両端を2人で持って、巣箱を吊り下げ運ぶ姿は、げんきの森の秋の風物詩。去年のデータを参考に設置する木を決めると、1人はムカデ梯子で木に

上り、地上にいるもう1人は専用竹竿で巣箱を引掛けその位置まで持ち上げます。巣箱の向きや傾きを調整しながら棕櫚縄2本で木にしっかりくり付ければ1つ取り付け完了です。ベテラン Tさん、Iさん中心に作業を進め、その手順やお話から巣箱掛けの奥儀が少し分かったかなというところで午前の作業は終了。手づくりの森とふれあいの森に15個の巣箱を取り付けました。

午後は不慣れな女性3人で残りの5個をわんぱくの森と管理車道沿いの木に設置。管理棟や体験棟などの建物にはTさん、Iさんがビスで留めてくれ、来シーズンの準備ができました。

春になるとシジュウカラやヤマガラがこの巣箱で子育てします。他の鳥達も森のあちこちで子育てを始めます。無事に巣立ったヒナ達がまたここで子育てできる、たくさんの生き物が集まる素敵な森を残していければいいなと思います。(宗 由美)



熟練者のレクチャー受けて

被害木処理・・・カシノナガキクイムシのため、立ち枯れしたコナラを伐採しました。この日の伐採処理班は人数が少なく、午前中は5名、午後は最初3名で終盤に2名参加のみでした。枯れ木は、作業中に枯れ枝が折れて落下しやすいので注意しながらの作業となりました。伐採経験の少ない倶楽部員に、熟練者がロープのかけ方やチェーンソーの仕組み、伐採時の注意点などをレクチャーしていただきました。(神浪 佐知子)

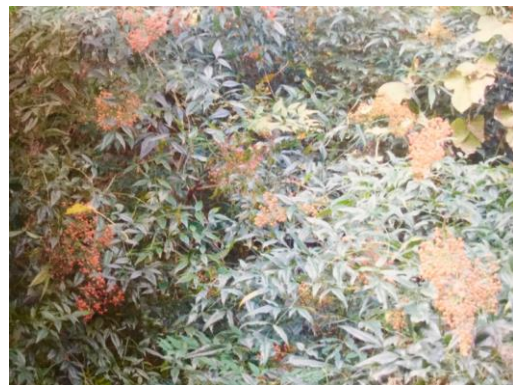




草刈りした斜面で南天真っ赤に

うるし谷整備…先月の主役きんもくせいの花も時季を過ぎ、本日は定番の「広場周辺の草刈」です。広場北側山斜面が作業場です。9人が参加し、各々手鎌、竹鋸、剪定ハサミ、それと一人草刈り機1台。

ここには平成31年度に植樹したクヌギ32本とウバメガシ数本があります。植樹周辺の草や竹を刈ると各々が姿を現わしてきます。背丈も50cm程で成長の勢いとか色々です。大人数と冬場で草の成長が遅い分作業もはかどり、午前中にきれいに仕上がりました。除草された斜面で南天が真っ赤に燃えており



ます。午前の休憩時Yさんから漆に関連した根来塗と黒江塗の話を押聴。

午後は広場奥の漆植樹園で樹齢4~5年生の漆の木を見学。猪の食害にあいながら、背丈以上に大きく育ったものも多数ありました。そして園の端でお茶の木に覆い被さっている竹や雑木を伐採。その雑木に絡まったやまいものつるに大粒のムカゴが沢山なっており、高齢者に交じって頑張っている10代Iさんに収穫および食してもらうことになりました。(藤園 満郎)



炭だらけになり袋詰め

炭出し…今日は10月27日から5日間かけて焼いた炭を窯から出して袋詰めする作業です。今回の参加者は10人です。窯の入り口を塞いでいたブロックを外して中を見ると、前回より炭の量はすこし少ない感じ。いつものように、炭を窯から出す作業、炭を適当な長さに切る作業、炭を定量袋詰めする作業をそれぞれ

それぞれ分担して進めました。皆さんいつものように炭だらけになりながらの作業でしたが、今回テレビ和歌山さんの取材、撮影が入っていました。炭だらけの姿、放送されるのでしょうか。作業は順調に進み、今回できた炭は全部で20袋(200 kg)となりました。前回に比べて少なかったですが、窯に詰めた炭材が少なかったのかもしれませんが、たたくとキンキンと金属音のする炭もあり、質の良い炭ができたのではないかと思います。

窯の中の床面が以前からでこぼこになっていたところがあったので、炭出し作業が終わった後、土を練ってでこぼこを埋めて平らにしました。次回用の炭材を窯の前に準備して本日の作業は終了となりました。窯に炭材を詰める作業は後日です。皆さんお疲れ様でした。(堀田 正二)

今年も暮れます。

コロナはなかなか終息しませんが、和歌山の患者はそれほど増えなかったためか、県民のみなさんはたくさんげんきの森に遊びに来てくれて、今年の入園者数は過去最高に迫る勢いです。

森の中で過ごす、免疫力は確実にアップするようです。来年もコロナはどんなふうに変異するかわかりませんが、油断せず、でも心配し過ぎず、げんきに森で楽しみたいですね。

良いお年をお迎えください。(岡田 和久)